

(株)リアルインベント
代表取締役社長

PICK UP

THE PERSON

村岡 佑紀

KEY WORD

人間

— ningen —

企業にとって欠かせないITインフラを手掛ける『リアルインベント』。同社を率いる村岡社長は、前職時代からの信頼できる相棒の森田専務と共に、何よりも「人間性」を重視した事業を推進している人物だ。近年の技術発展によりITやインターネットはより身近な存在になった。「デジタル需要が高まっている現代においては、技術力」だけでなく、そのツールの先にいる人を思いやる「人間力」も重要と考えているんです」と社長。「創造する」「生み出す」という思いが込められた社名の通り、同社は今後もお客様へ「自主」「創造」「開拓」の精神で貢献し続けていく。



「優秀な皆のお陰で当社がある。
まさに人間こそ財産なんです」

高い技術力と人間力をもって 企業のITインフラを支えるプロ集団

東京都でITインフラの企画、開発、制作から販売、保守まで一貫して手掛けている「リアルインVENT」。顧客の業界は多岐にわたり、それぞれの特徴、社風に合わせたシステムを提供している。多くの企業のニーズに耐えうる技術力を提供する同社を牽引するのは、IT業界で経験を積み、同じ志を持って同社を立ち上げた村岡社長と森田専務だ。本日はタレントの島崎俊郎氏がお二人のもとを訪れ、インタビューを行った。

——早速ですが、村岡社長、森田専務お二人の歩みから伺います。

(村) 私は青森県の十和田市出身です。いたって普通の、よく外で遊んでいるような少年でした。中学生になると音楽に興味を持ち、友達とバンドを組んでいました。私はベースを担当して、当時流行っていたヴィジュアル系バンドのコピーをしたり、オリジナルの曲を作ったりするバンドでした(笑)。そうして活動していた、高校生の時に上京したいとの思いを持ち、卒業後にはバンド仲間数人と共に上京しました。

——なるほど。本格的に音楽活動をされようと思ったんですか。

(村) いえ。もともと20歳までと期限を決めていたんです。そのため卒業後は東京のIT系の専門学校に通いながら、バンド活動を続けていました。そして、専門学校卒業後はバンドを辞め、東京のIT系ベンチャー企業に就職したんです。

——そこから本格的にITの世界に入られたんですね。その会社ではどういったお仕事をされていたのですか。

(村) いわゆるインフラ部分です。分かりやすく言いますと、ホームページ等の基盤にあたる部分ですね。当時はいろんな企業がIT化促進に取り組んでいましたから、そういったニーズは高まっており、この前職での経験が今の事業につながっています。そして、この会社で森田専務と出会いました。

(森) 私は高知県出身で、大学進学を機に上京しました。年齢も違っていました。村岡社長とは同期入社で一緒に新人研修を受けたんです。そのことから仲良くなって



専務執行役員

森田 耕市



代表取締役社長

村岡 佑紀

——熱く語り合ったのですね(笑)。その夢が叶って独立されたのはいつごろなのでしょう。

(村) その後しばらくして、新規会社が立ち上がる運びになり、私も専務もそちらに移り一緒に仕事をするようになりました。それがきっかけで、28歳のころに独立の構想が生まれ、29歳の時に、当社を立ち上げるに至ったんです。

——ついに夢が叶ったのですね。立ち上げられた当初はいかがでしたか。

(村) 前職の伝手は使わず、私たちが一から顧客を開拓していきました。自ら営業にも行き、また、妻もIT関係の仕事をしていたつながりもあり、仕事は徐々に軌道に乗っていきました。現在はシステムの基盤となるインフラ部分において、コンサルティングから構築・運用・保守までトータルコーディネートを行っています。当社にはシステム開発技術者やサーバーインフラ技術者など優秀な人材が揃っています。局所的な問題解決などの細かな部分でも対応できるのが強み。お客様のお困りごとを貪欲に伺い、誠実に、そして正確かつ迅速に業務を遂行することをモットーにしています。手前味噌ではありますが、銀行などの金融系、官公庁、小売業など、多くの事業者様と良い関係を築けていると感じています。

——IT市場は今後も成長していく業界でしょうから、御社はこれからも時代の波に乗ってドンドン伸びていきそうですね。では、今後の目標をぜひお聞かせ下さい。

(村) 2021年9月からは国のほうでもデジタル庁が発足したことで、社会にとっ

いき、以来、社長とはもうかれこれ17年ぐらいたったの付き合いです。

——今ではお二人で事業を進められているとは、運命の出会いだったのですか。

(村) 当初は全く独立心はなかったのですが、意外なことに、勤め始めてすぐに独立心が芽生えてきたんです。それでまだ新人のころ、専務と錦糸町の駅前の輪っかのオブジェのところで「いつか独立しよう」と語り合いました。

(森) 社長からは知り合ったばかりのころから「いつか自分が社長をやるから、その時は君がナンバー2だぞ」と言われていま



島崎 俊郎

ゲストインタビュー

「村岡社長、森田専務のお二人にお互いの印象を伺ったところ、社長は『専務は男らしく筋を通す人』と、専務は『社長はバイタリティーがあり、人を惹きつける力がある人』とそれぞれに話して下さいました。対談を通じ、いかにお二人が互いを信頼しあっているのが窺えましたよ！ 今後は全国進出を目標にされているとか。これからもお二人で頑張ってくださいですね！」

てITはますます必要不可欠になっていくでしょう。当社でもDXなどの資格を取得するなど、常に新しい波に乗れるように構えていくつもりです。そして実は私は、故郷の青森県十和田市から企業誘致大使という役に任命されています。当社の支店を十和田市に作りました。当社のスタッフには地方出身者も多いので、彼らの故郷にも支社を出し、地方の企業誘致にも貢献していきたいと考えているところです。

(森) 私も社長と全く同じ思いを抱いています。故郷に錦を飾る、というわけではありませんが、私の故郷にも支社を出せたら嬉しいですね。今後3〜4年を目標に、地方への貢献も積極的に進め、全国に進出したいと思っています！

Company Profile



株式会社 リアルインVENT

【本社】東京都荒川区西日暮里 5-14-10 サンライズビル 3F

【支社】青森県十和田市西三番町 1-8

URL : <https://realinvent.co.jp>



VIEW POINT

デジタル時代にこそ、大切にすべきもの

▼ITインフラ提供を手掛ける「リアルインVENT」では約20名の技術者が在籍しており、日々事業にあたっている。同社の村岡社長は「スタッフの人間性」を大切にしており、少数精鋭で、自らが一人ひとりと接するように心がけているという。そこには「きちんと一人ひとりに向き合い、技術だけでなく人間性でも最高の人材に育てほしい」との思いがある。社内でのコミュニケーションも同じく、人間味のある温かい社風が醸成されており、社長自らお客様の会社との相性を考えて人選し、自信を

もって送り出している。

▼時にはお客様の会社で作業をすることもあり、現在ではスタッフのリモートワークも増えているという同社だが、スタッフたちが頻りに顔を合わせ、コロナ禍以前には仕事終わりにみんなで飲みに行き楽しむなどアットホームな関係を築いている。そんなチームワークの良さも同社の強みの一つ。結局のところ、ITを創り上げているのは人間。デジタルな分野であっても、社長はこのアナログな部分を重視し、今後も企業を成長に導いていく。